

片頭痛ケアの新しいカタチ

「痛みを我慢する」から「起こさない」へ
脳の仕組みから知る最新の治療法

片頭痛に悩む方にとつて、あのズキズキとした痛みは生活を止めてしまふ大きな悩みです。しかし今、医学の進歩によつて、片頭痛が起きる「正体」が解明され、治療のあり方が大きく変わろうとしています。

最新の飲み薬の話題を中心に、知っておきたい片頭痛の知識を分かりやすく解説します。

■なぜ片頭痛は起きるのか？

痛みの正体「CGRP」

片頭痛のメカニズムには、脳の太い血管の周り



にある「三叉（さんさ）神経」という神経が深く関わっています。

何らかのきっかけ（ストレス、天候、寝不足など）でこの神経が刺激されると、「CGRP（シージーアルピー）」という物質が放出されま

す。この物質には「血管を大きく広げる」作用と「周りに炎症を起こす」作用があります。

1. 血管が広がる▼広がった血管が神経を圧迫します。

2. 炎症が起きる▼血管の周りが敏感になり、さらに痛みを引き起こします。

この連鎖によって、心臓の鼓動に合わせて「ズキズキ」と痛む、あの独特な痛みが生まれるのです。

■従来の薬と、最新の「狙い撃ち」する薬の違い

これまで、片頭痛の特效薬として使われてきたお薬（トリプタン系など）は、主に「広がった血管をギュッと縮める」ことで痛みを抑えてきました。即効性がありますが、血管に直接働きかけるため、心臓や血管に持病がある方には慎重に使う必要がありました。

それに対し、最新のタイプのお薬（デパント系



など）は、痛みの元凶である「CGRP」のスイッチを直接オフにするといい、全く新しい仕組みを持っています。

・血管を無理に縮めない▼血管への負担が少なく、より多くの方が使いやすくなりました。

・痛みの「元」をブロック▼神経の興奮を直接抑えるため、これまでの薬が効

■進化する「予防」の選択肢

飲み薬以外にも、予防の選択肢は広がっています。

・月1回の注射薬▼1ヶ月（または数ヶ月）に1回の注射で、痛みの原因物質をあらかじめ無効化します。毎日薬を飲むのが難しい方選ばれています。

・新しい予防の飲み薬▼毎日1回飲むことで、痛

きにくかった方にも期待されています。

■痛くなつてから」と「予防」をこれ一粒で

今、最も注目されている変化は、「痛くなった時に飲む」と「痛くならないように防ぐ」との両方を、同じ一つの飲み薬で使い分けられるようになった点です。

これまでは「毎日飲む予防薬」と「痛い時だけの頓服」を別々に管理する必要があり、飲み分け

が大変でした。最新の薬では、医師の診断のもとで「2日に1回定期的に飲んで回数を減らす」という使い方ができるようになり、患者さんの負担が大きく軽減されています。さらに、水なしでサッと口の中で溶けるタイプも登場しており、片頭痛特有の「吐き気で水が飲めない」という状況でも、場所を選ばず服用できるようになりました。

もし「最近、薬の量が増えてきたな」と感じたら、それは最新の予防療法に切り替えるサインかもしれません。

■おわりに▼あなたに合った「オーダーメイド」を片頭痛の治療は今、「起きてから対処する」ものから「起きないようにコントロールする」ものへと進化しました。

新しいタイプのお薬は、血管への優しさや、



診療予約は
こちらから

電話予約：0799-62-5566（診療時間内）

ネット予約：<https://ssc6.doctorqube.com/soyama-clinic/>（24時間対応）

携帯電話からは右のQRコードからでも予約できます

